

## ラーニングサポーター

### 1. はじめに

大学における学びのあり方は多様化し、双方向型の学びがより一層意識されるようになった。そこで、学生の学びに対する考えを直接届けることをねらって、2023年度より「ラーニングサポーター」制度を始動させた。

2023年度は、学生と教職員が意見を交わす場を設けた。2024年度は、「学生と学生」という関係に視点を置き、学生側が積極的に企画・発信することをねらって、「レポートの書き方」講座を企画した。

2025年度は、過去2年のコンセプトと成果を多面的に展開させて、学生の視点による主体的な学修環境整備の提言という観点から、① 研究室訪問・授業見学、② 学びの環境に関する本音トーク、③ 学生相互の学び合いイベント、④ 新しい授業の開発、という4領域を設定した。以上について学生と意見交換を重ね実施に向けた具体案を策定している。

### 2. ラーニングサポーターの組織

ラーニングサポーターに類する組織は「学生FD」とも称される。その目的は、学生と教職員が協働しながら、教育環境ならびに授業内容を改善・向上させていくことにある。具体的には、学生が授業や学習環境について自由に語り合う場を主催したり、学生目線でおすすめの授業を紹介したりするような取り組みがある。また、学生によるシラバスの読み説き方、上級生による「学び方講座」の実施（ポートフォリオの活用、学びのロールモデルの紹介、学内施設の活用方法）、学生発案の授業の実施、なども企画されている。

ラーニングサポーターを構成する学生として、まずは2025年度入学時の特待生に呼びかけを行った。

（参考）十文字学園女子大学特待生規程

第1条 この規程は、十文字学園女子大学入学時に学業、スポーツもしくはその他の分野において極めて優秀または在学時に学業において極めて優秀、かつ、品行方正な学生を選考してこれを特待生とし、もって人材の育成に寄与することを目的とする。

対象となる学生には、十文字学園女子大学の学びの環境を向上させ、学生相互に学び合う場を創り、本学の魅力を外部に発信するというラーニングサポーターの活動の趣旨を説明し、学生から「学習環境の向上と発信」について、どのようなことをしたいか、アイデアを募った。学生の回答をもとに以下の4領域を設定し、それぞれ希望する領域に担当を割り振った。

- ① 研究室訪問・授業見学
- ② 学びの環境に関する本音トーク
- ③ 学生相互の学び合いイベント
- ④ 新しい授業の開発

### 3. 活動報告

ラーニングサポーターのキックオフミーティングと、4領域それぞれの進捗状況と活動を報告する。

#### ・キックオフミーティング

10月16日(木)および、当日参加ができなかった学生を対象に10月30日(木)のキックオフミーティングを実施し、趣旨説明と学生へのアンケートを行った。

#### ① 研究室訪問・授業見学

学生は自身が所属する学科以外の教員や授業について知らないまま学生生活を送ることが少なくない。大学全体の学びの特色を知ることが目的として、学生が記事を執筆しHPやSNSで発信する。

学生の視点から、学生が頻繁に閲覧するメディアや記事の内容、ボリューム等に関する意見を聴取した。担当する学生を2グループに分け、実際に訪問する際にインタビューする項目、最初に訪問する先生について検討した。今後の流れとしては、教務課がラーニングサポーターに使用するインスタグラムのアカウントを広報課に申請し、担当教員から今回の活動主旨を教員に説明、周知したうえで、学生による研究室を実施する予定である。

#### ② 学びの環境(授業・学修ポータルサイト・UNIPAなど)に関する本音トーク

とりわけ入学時には、大学の授業のシステムが高校時と大きく異なり戸惑うことが多い。また、学修ポータルサイトやUNIPAを適切に使用できないと授業に支障をきたすこともある。

担当する学生たちへ、改善すべき点も含め学びの環境を整備するための意見を聞く日を検討中である。

#### ③ 学生相互の学び合いイベント

入門ゼミ等学科の学修の中で、メールの書き方、レポートの書き方、図書館の使い方等一通りのレクチャーはあるが、入学時には一時に覚えることが難しく、学生相互のサポート体制を作ることが望ましい。

担当する学生たちへ、具体的な内容について相談予定である。

#### ④ 新しい授業の開発

学生の主体的な活動を促進するために、ラーニングサポーターの学生を中心とする取り組みを推進する。今後の教育体制の構築において必要となる内容や方法を検討するため、学生主体による新たな授業を創り上げることを試行する。

学生ラーニングサポーターの提案による授業づくりを実施することとし、2026年度は、「ゲーム」をテーマとした総合的な探究が展開できる授業を創造することとした。「総合科目」に申請し、1年生の後期科目「総合科目((仮題)わたしの”推し”授業(他学科の学生にも知らせたい))」として開講することが決定した。

以上 4 つの領域は独立したものではなく、例えば、①と④、②と③は相互に関連する部分もある。今後は、ラーニングサポーターも連携する可能性もある。

#### 4. おわりに

2025 年度の新たな試みとして、入学時の特待生にラーニングサポーターの呼びかけを行った。今後は、安定的な運営を行うためにメンバーの継続と募集が課題となる。複数年度にわたる活動も視野に入れた年間計画を早めに立案し、実施できるとよい。

この事業は、学生が主体的に提言しながら教職員と協働して学修環境を整備してゆくものである。そのためには、学生たちの「やってみたい」という意欲をくみながら、取り組みやすい内容から活動を推進していくことが肝要となる。学びの情報発信という点でも、ラーニングサポーターに対する期待は大きい。活動の記録を Web 上に掲載、あるいは SNS で発信し、学生の大学への帰属意識を高めるとともに、本学の学びを学内外に発信していきたい。

数年後、ラーニングサポーターの活動から、ロールモデルとなる学生が現れ、活動が自走していくことを願う。

以上